

第 16 期研究 1 年次高等部実践

高等部の国語の学習は中学部と同様に、生徒の実態に合わせて縦割りで3つのグループを編成して行っている。このうち、学部別授業研究の対象となるCグループの生徒は、身近な教師や友だちと、興味のもてる活動や話題を通してやりとりを楽しもうとする6名の生徒たちである。縦割りグループではあるものの、グループ内の生徒の実態の幅は広く、授業の中での教師の簡単な口頭での質問に単語や2語文で答える生徒、一対複数で話している教師や学習教材の提示などへの注目が難しく、個別に促しや教材提示が必要な生徒、教師の口頭での指示に応じて製作やワークシート記入などができる生徒、教師が手を取りながら一緒に行う生徒など、学び方や知識や技能の身に付き方もそれぞれである。また、発語が少なくても、身近で簡単な指示に合わせて適切に行動できる様子やしぐさ、表情、声の抑揚などから、内言語をある程度もっているかと予想される生徒もいる。

授業研究を行うにあたっては、まずこのCグループの生徒の国語科の実態について、教師の理解を深めたいと考えた。そこで、「学習内容表」を活用し、生徒一人ひとりについて、学びの履歴や、今後どういったことに取り組まなければならないかということを学部内で検討した。

〔学習内容表を用いた国語の実態の把握（抜粋）〕

〔国語〕科 小学部			〔国語〕科 中学部			〔国語〕科 高等部		
項目	下位項目	項目	下位項目	項目	下位項目	項目	下位項目	項目
言葉の特長や使い方に關する次の事項を身に付	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階	高等部3段階
	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを認めること。ア～(7)	身近な人の話し掛けや余韻などの話し言葉に慣れ、言葉が、感情や考えを表していることを認めること。ア～(7)	身近な人との余韻や感情の表裏を聞き取ることができ、言葉には感情や考えが込められていることを認めること。ア～(7)	身近な人との余韻や感情の表裏を聞き取ることができ、言葉には感情や考えが込められていることを認めること。ア～(7)	身近な人との余韻や感情の表裏を聞き取ることができ、言葉には感情や考えが込められていることを認めること。ア～(7)	身近な人との余韻や感情の表裏を聞き取ることができ、言葉には感情や考えが込められていることを認めること。ア～(7)	身近な人との余韻や感情の表裏を聞き取ることができ、言葉には感情や考えが込められていることを認めること。ア～(7)	身近な人との余韻や感情の表裏を聞き取ることができ、言葉には感情や考えが込められていることを認めること。ア～(7)
知識・技能	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階	高等部3段階
	言葉の持つリズムに慣れたり、言葉が事柄やイメージに表れたりすること。ア～(7)	日常生でよく使われている言葉を知ること。ア～(7)	日常生でよく使われている言葉を知ること。ア～(7)	日常生でよく使われている言葉を知ること。ア～(7)	日常生でよく使われている言葉を知ること。ア～(7)	日常生でよく使われている言葉を知ること。ア～(7)	日常生でよく使われている言葉を知ること。ア～(7)	日常生でよく使われている言葉を知ること。ア～(7)

検討の結果、生徒一人ひとりの取り組みたい国語科の指導内容を明らかにすることができた。そのうち2人を抽出してまとめた。

〔生徒Jの取り組みたい国語科の指導内容〕

【生徒J】

- ・二語から三語で構成する文を題材に、主語や助詞が変わることで表す状況が変化することを理解すること。
- ・読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。
- ・身近な人の話に慣れ、経験したことなどについて頭の中にイメージしたものと知っている言葉とを照合したり当てはめたりして、その意味や言葉から連想されるイメージを思い浮かべること。
- ・教師と一緒に、よく親しんでいる絵本の絵や題名などを見て、どんな登場人物が出てくるかを考えたり、場面の様子や登場人物の行動などについてイメージしたことを言葉や動作で表そうとしたりすること。
- ・教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。
- ・絵本の読み聞かせや自分自身の経験などから、好きな場面を考えて教師や友達に伝えたり、好きな言葉などを模倣したりすること。

〔生徒Kの取り組みたい国語科の指導内容〕

【生徒K】

- ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。
- ・実際の事物などを見たり触ったりして実感し、言葉と事物とを結び付けたり、生活経験からいろいろなことを想起し、それらを言葉と結び付けて表現したりしていくこと。
- ・昔話やわらべ歌、言葉遊びなどについて、読み聞かせを聞くなどして言葉の響きやリズムを感じたり、動作化したりして親しむこと。
- ・読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。
- ・教師と一緒に、絵本のほか、紙芝居を読んでもらったり、写真や絵、映像などを見たりすることで、身近にある事物や事柄、生き物などが表現されていることに気付き、注目すること。
- ・絵本(紙芝居・ペープサート・映像)などを読んでもらったり、写真などの事物の名前などを読んでもらったりした際に、その対象に指さしをしたり、視線や意識を向けたりすること。

年間指導計画に沿って単元を計画するにあたって、生徒一人ひとりの取り組みたい国語科の指導内容を踏まえて検討した。もともと、「絵本を楽しもう」の4時間の単元を予定していた。しかし、Cグループの学習においては、残された少ない学校生活の中で、新規の知識・技能を身に付けさせようとするよりも、コミュニケーションの基盤を意識しながら、生徒一人ひとりが言葉とどのように向き合うのか、また、言葉を通してどのように人や物と通じ合う経験を増やしていくか、というところに重点を置いて計画しなければならないと考え、絵本とじっくりと向き合って味わう時間を確保するために、1冊に4時間かけたまとまりを一次とし、4冊の絵本を取り扱う16時間の単元とすることにした。生徒が興味のある絵本を取り扱い、その内容を想像・思考して書いたり、伝えたりし、意欲的に気づきや思いを教師と共有しながら物語の世界を楽しむ学習にしたいと考えた。

高等部国語 C グループ 国語科学習指導案（抜粋）

1. 単元名「絵本を楽しもう」

2. 単元の目標

絵本の読み聞かせを聞き、それに応じた課題に取り組みながら、言葉や絵本への興味・関心を高める。

3. 単元の計画（全 16 時間）

次	時	日時	学習活動	指導内容
1	1	11月4日 (水)	① 絵本の読み聞かせを聞く。 ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。 ○絵とそれに合う文を結びつける。 ○お店屋さんのやりとりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせに注目し、絵本などに興味をもつこと。 ・家族や友達など身近な人から話掛けられた状況を受け止め、関心をもって相手を見たり、音声で模倣したり、簡単な言葉で表現したりすること。 ・場面の状況や絵本の挿絵などを手掛かりに、内容をおおまかに把握し、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な言葉などで表現したりすること。 ・簡単な指示や説明を聞き、その指示が分かること。 ・身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。
	2	11月11日 (水)	① 絵本の読み聞かせを聞く。 ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。 ○示された主語に合うように、語を並び替える。 ○絵とそれに合う文を結びつける。 ○お店屋さんのやりとりをする。	
	3	11月19日 (木)	① 絵本の読み聞かせを聞く。 ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。 ○絵に合う文になるように、語を並び替える。 ○示された主語に合うように、語を並び替える。 ○お店屋さんのやりとりをする。	
	4	11月25日 (水)	① 絵本の読み聞かせを聞く。 ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。 ○選択肢から必要な語を選んで、絵に合う文を作る。 ○絵に合う文になるように、語を並び替える。 ○お店屋さんのやりとりをする。	
2	5～8	12月2～23日	① 絵本の読み聞かせを聞く。(生徒が選んだ本) ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。	1次に加え <ul style="list-style-type: none"> ・経験したことの中から楽しかったことなどの伝えたいことを、具体物や絵、写真などを手掛かりに、想起したり、言
3	9～12	1月13～2月3日	① 絵本の読み聞かせを聞く。(生徒が選んだ本) ② 絵本の内容について、それぞれの課題に取り組む。	
4	13～16	2月10～	① 絵本の読み聞かせを聞く。(生徒が選んだ本)	

4. 単元の個人目標

	個人目標
J	① 主語と述語の関係に気付く、分かる。(小2段階 知・技) ② 絵に合う文を選んだり、選択肢の語を並び替えたりして表現することができる。(小2段階 思・判・表) ③ 絵本の内容について、自分の思いをもち、教師に伝えようとする。(小2段階 主)
K	① 教師の読み聞かせを、視線を向けて聞く。(小1段階 知・技) ② 登場する動物や物に注目したり気付いたりできる。(小1段階 思・判・表) ③ 教師や友だちからの言葉かけに反応し、答えようとする。(小1段階 主)
L	① 絵本に親しみ、興味をもつことができる。(小2段階 知・技) ② 絵本の内容についての質問に、選択肢から選んで、答えることができる。(小2段階 思・判・表) ③ 絵に合う文を選んだり、語を並び替えて絵を文章で表現したりすることができる。(小2段階 思・判・表)
M	① 教師の読み聞かせを聞くことができる。(小1段階 知・技) ② 絵本の内容についての質問に、選択肢から選んで、答えることができる。(小1段階 思・判・表) ③ 絵に合う文を選んだり、語を並び替えて絵を文章で表現したりすることができる。(小1段階 思・判・表)
N	① 教師の読み聞かせを聞くことができる。(小1段階 知・技) ② 登場する動物や物に注目したり気付いたりできる。(小1段階 思・判・表) ③ 教師や友だちからの言葉かけに反応し、答えようとする。(小1段階 主)
O	① 主語と述語の関係に気付く、分かる。(小2段階 知・技) ② 絵に合う文を選んだり、選択肢の語を並び替えたりして表現することができる。(小2段階 思・判・表) ③ 絵本の内容について、自分の思いをもち、教師に伝えようとする。(小2段階 主)

授業の展開は、前半に「絵本の読み聞かせを聞く」全体での活動と、後半に「それぞれの課題に取り組む」ペア学習の2部構成で展開を固定した。前半の「絵本の読み聞かせを聞く」活動では、電子黒板を用いて生徒に挿絵を見せながら、教師による読み聞かせを行った。その際、ある場面で一旦区切り、その場面の簡単な質問を行った。途中で教師からの質問を入れることで、登場人物や登場人物の動きを丁寧に振り返り、人物の関係性や場面の状況を確認しやくすることや、物語全体の把握が難しい生徒も、少しずつイメージできるようになることをねらった。1回の読み聞かせのうち4問の質問を設けた。質問への答え方は、それぞれの生徒に応じてできるように、個別に教材を準備した。後半は、実態に応じて組み合わせた2人1組のペア学習を中心に進めた。絵を見て二語文から四語文を作ったり、選択肢の中から必要な語を選んで文を作ったりするペア、示された語を並び替えて文を作るペア、教師と一緒に身近な物の名前を聞いて、絵カードを選んだりするペアに分かれて取り組んだ。このペア学習での教材も一人ひとりの実態に応じたものを準備し、授業改善の視点から、前時の取り組み方を踏まえ改善・変更することとした。

〔授業の展開〕

時間	学習活動	活動の詳細
9:40	はじめのあいさつ	
9:42	今日の学習の流れ、目標の確認	本時の活動の流れや目標を、電子黒板で確認する。
9:45	絵本の読み聞かせ	今日の注目ポイントに気を付けながら、読み聞かせを聞く。話の途中で4つの質問があるので答える。
10:10	ペア学習	絵を見て言葉を並び替えて文を作ったり、絵とそれに合う文を結び付けたり、教師とのやり取りを楽しんだりして、それぞれに合った学習に取り組む。
10:25	ふりかえり	目標を確認しながら、本時の振り返りをする。
10:30	終わりのあいさつ	

単元計画に沿って授業実践を進めたが、1時間ごとに生徒の活動の様子から授業改善を図るようにした。特に、生徒が主体的に活動するために必要な手立てについて、毎時間工夫をするようにした。ここでは、活動場面ごとに、「教師がどのような手立ての工夫を行ったか。」「生徒はどのように活動したか。」について記載した。「生徒の行動の意味」や「どんな支援が必要なのか」の考察も踏まえてまとめた。

〔絵本の読み聞かせの場面での授業改善〕

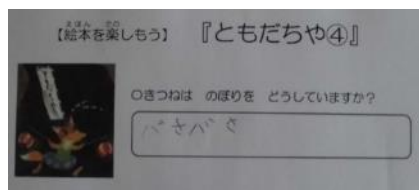
絵本の読み聞かせの場面での手立ての工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の登場人物中の誰の台詞なのか分かりやすいように、ペープサートを見せた。 ・丁寧に振り返りながら、少しずつイメージができるように、読み聞かせの途中で、内容についての質問を入れるようにした。 ・電子黒板に大きく絵本を映し出したり、生徒によってはマイ絵本を準備し、手元に置いておくようにした。 ・読み聞かせをしているT1の教師や電子黒板に注目するように、T2の教師が個別に言葉掛けした。 	
生徒の様子	生徒の行動の意味や必要な支援に関する考察
<p>生徒Kは、1回目はT2の教師が側で見守ったが、電子黒板に注目することができなかった。2回目は、KとNに一人の教師が言葉掛けしたが、やはり読み聞かせに集中できなかった。3回目はKとNのそれぞれに一人ずつ教師が支援に入り、絵本の内容に関する語りかけを行ったところ、電子黒板を見たり、支援者の方を見てうなずいたりしながら、最後まで聞くことができた。</p>	<p>聞くことに注意を向けることが難しい生徒には、T2の教師が個別に言葉かけする必要がある。その言葉かけについても複数に向けて「お話を聞きましょう。」ではなく、生徒が自分に言葉を向けられることが分かるように「すぐ近くで言葉かけする。」や「まず名前を呼ぶ。」などの工夫が大切であることが分かった。</p>

〔絵本についての質問に答える場面での授業改善〕

読み聞かせ途中の質問に答える場面での手立ての工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ・同じ質問だが、一人ひとりが主体的に答えることができるように、回答の方法やワークシートを生徒それぞれに応じたものを準備した。 ・4回の授業では、前時の回答の様子を見ながら、同じ問題も含むようにした。4問の問題を、毎回考えることで、場面の様子をつかみ、内容の大体を理解できるようにした。 ・生徒に応じて挿絵のカードを見せるときに、1枚1枚目の前に提示しながら、絵が表している内容を語りかけて伝えるようにした。 	
生徒の様子	生徒の行動の意味や必要な支援に関する考察
<p>生徒Jは、2回目3回目の授業で「きつねは、のぼりを どうしていますか」の問題に対して、手振りで動作を示していたが(図14)、なかなか言葉を書き出せなかった。しばらく考えて、絵本の文中から「ともだちやふりふり」と書き出した。4回目の授業では、教師に「旗はゆらゆら。バサバサ。」と、口頭で伝え、少し考えて、「バサバサ」と書いた(図15)。</p>	<p>生徒Jは登場人物の動作を理解しているが、その動作を表す言葉として「ふりふり」は、まだ獲得途中である。これまでの学習で学んで知っている言葉である「バサバサ」とじっくり合わせながら考えているのではないかと推測できる。言葉のイメージ広げるプロセスとして必要なことであると考えられた。</p>



〔生徒Jの手振りでの動作〕



〔生徒Jの「バサバサ」の記述〕

〔ペア学習の場面での授業改善〕

ペア学習の場面での手立ての工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのペアに応じた問題を準備した。 ・自信をもって答えることができるように、問題やワークシートをスモールステップで変更していくようにした。 ・カードのマッチングでは、生徒の「物の見え方」に注意し、1枚ずつ説明しながら見せたり、カードホルダーに立てて置いたりした。また、生徒に応じて手に取りやすいようにカードに厚みをもたせた。 	
生徒の様子	生徒の行動の意味や必要な支援に関する考察
<p>1回目は、生徒KとNのやり取りを想定した活動を、教師1名の指導で行ったが、KはNの行動を待たずに、次々にカードを取って、渡そうとするようになった。2回目以降は、まずは、それぞれの生徒に1人ずつ教師がついて生徒の1対1でやり取りの練習をした後に、今度は「Nさんが選んだものと同じものを、Kさんも選んでね」というふうに言葉かけをしたところ、スムーズにできるようになった。</p>	<p>生徒同士でのやりとりが難しい生徒であっても、スモールステップを踏みながら、教師が適切に支援を行っていくことで、可能であることが分かった。2人が好きな果物のカードを使っただけの活動だったことや、国語の授業以外の場面でも、一緒に教室移動するなど、交流する機会を多く設定するなどしたことも有効であったと考える。</p>

高等部の授業研究の成果と課題は以下のようにまとめられた。

【成果】

- それまでの 50 分間一斉授業のみの展開から、生徒の実態に合わせて一斉授業とペア学習を組み合わせた授業展開にした。活動に最後まで参加できる生徒が増えた。
- 個々の実態に応じたワークシートや、生徒の記憶の特性や、物の見え方に配慮した教材を準備するようにした。少ない支援で回答したり、教材に注目して自分から手を伸ばしたりする姿が見られるようになった。
- T2 の教師が誰の支援に入るか、どのような支援をするか、打ち合わせした上で授業を行った。生徒一人ひとりの目標が達成されるようになったとともに、T1 の教師への注目などもできるようになった。
- 同じ授業展開で、生徒が見通しを持って授業に参加できるようになった。また、絵本に関心を持ち、授業中自ら音読をし始める生徒もでてきた。同じ絵本の読み聞かせを繰り返し行ったこと要因の一つであると考える。
- 授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」のうち、特に「主体的」に注目して、毎時間の授業の工夫を行うようにしたところ、全生徒が主体的に授業に取り組み、本来もっていた力を発揮することができるようになったと考える。

【課題】

- 教師間の打合せの時間がほとんどとれないことが一番の課題である。
- 個に応じた支援の為には、配慮が行き届いた教材の作成が重要だが、その準備時間の確保が必要である。
- 授業に関する情報や、教材の共有について、アイデアを出し合いながら解決方法を探っていききたい。